紐ヲ前後二輪ヲ付テ、前輪ヲ腮下ニ掛ケ、背輪ヲ口ノ下ニカクルナリ、○圖略脱シト欲スル時、背輪ニ指カケ、耳ヲハヅセバ前ニ脱ル、其頃シカラザルガ故ニ、市中ヲ冠ル笠ハ近年専ラ用之、蓋菅笠ニハ用ヒズ、枕、來舶ノアンペラ、或ハ黑天鵞絨等也、粗ナルハ木綿モアリ、

弘化以來新製也、○圖略輪及ビ紐ハ細キ割タル竹ニ割藤ヲ卷タリ、來舶ノ藤也、紐ノ用ヒ樣同前、又枕ヲ用ヒズ、代之ニ「如此竹ノ表ヲ黑天鵞絨ヲ以テ縫包メリ、頭上ニ風ヲ通スコトヲ要ス、是亦菅笠等ニ用ヒズ、藤笠、島笠、目關笠等ニ專ラ用之コト江戸ノミ歟、

弘化前ヨリ全ク鯨髭ノ製物アリ、此製有テ後、鯨製廢ス、

笠種類

〔倭訓栞前編六加〕かさ○略中絹がさ、蘭がさ、菅がさ、市女がさ、局がさ、つぼみがさ、ゑがらき笠、つぶれ笠、平がさ、田笠、墨笠あり、後世疊笠、宇都宮笠、小田笠あり、又天和の頃はつゞら笠、元祿のころは、ぬり笠はやれり寛文の頃は、江戸にて女の編笠を用ゐたる事あり、

以原質爲名

〔八雲御抄三下雜物〕笠　花　から　松　むし　そで　ひぢ　ひら　あみ　小　を　きぬ　すげ　すか　みしますが　なにはすか　すげのを　みこすげの　まつ　梅の花　鶯　あやゐ　おほ　竹　かくれ　ゑば

〔增補下學集下二器財〕箬笠タケノコカサ

〔名物六帖器財五傘笠杖履〕箬笠タケノコカサ　瑯邪代醉編、霏雪錄、蝦蟆如ニ箬笠大ハ、　青蒻笠アヲキタケノコカサ　張志和、青蒻笠、綠簑衣、斜風細雨不ニ須歸、　敗天公ヤフレガサ　本艸、敗天公、弘景曰、此乃人所載竹笠之敗者、李時珍曰、尊天論云、天形如ニ笠而冒ニ地之表、則天公之名蓋取ニ于此、　竹笠タケガサ　見上

〔古今要覽稿器財〕竹笠

笠てふ物品々有り、なかにいと古きは竹笠なるべし、すなはち今に有所のものにして、古くも替りたる事有るべからず、只竹をもて製したる笠なり、これ笠てふものゝはじめにして、今義解延喜式にも、その名見えたり、神代紀に所謂青草を結束て蓑笠とすと有れど、これは其時にはかの